



美しい 県土づくりNEWS

2015年

1月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第126号
平成27年1月30日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 西根バイパス全線開通しました！
- 4 災害公営住宅「西下団地」が、陸前高田市に完成！
- 5 主要地方道重茂半島線の道路整備についてに着工！
- 8 貫通目指し、前進中！ 久慈市山形町一般国道281号案内(あんない)トンネル工事
- 10 高田地区海岸養浜技術検討委員会を開催！
- 12 『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました！

祝 西根バイパス全線開通！

～ 市街地の狭隘区間回避により安全な交通確保期待 ～

平成26年12月25日(木)に、「一般国道282号西根バイパス開通式」が、小雪が舞う中、岩手県の主催で開催されました。

本事業は平成6年度に事業着手し、20年の歳月をかけて、バイパスの全区間を供用することができました。

式典には、田村八幡平市長、千葉県議会議長、杉原盛岡広域振興局長をはじめ、多くの関係者が出席し、主催者による式辞、来賓祝辞等が執り行われました。

また、式典の最後には、道路パトロールカーを先頭にパレードが行われ、西根バイパスはめでたく全線開通となりました。



西根バイパス開通式におけるテープカット

西根バイパス全線開通しました！

岩手土木センター、道路建設課

西根バイパスは西根ICの付近から、昨年11月に開所したばかりの新しい八幡平市役所の付近までの2車線道路で全体延長は8.9kmとなっています。平成16年度から平成23年度まで順次部分供用を図り、今回残りの3.8kmを供用開始し全線開通となりました。

一般国道282号は盛岡市から青森県まで伸びる幹線道路ですが、八幡平市大更地区、平館地区沿線には特に多くの家屋が連なっており、市街地は道路幅員が狭く急カーブと踏切が続くなど多くの隘路区間が連続しています。

そのため、広域的な幹線道路としての利用のほか、地域の生活道路としても利用されている本地区では、交通の安全確保が困難な状況でした。

西根バイパスの全線開通により、市街地を通らずに通行できることから、安全で円滑な交通の確保が期待されます。



旧道と西根バイパスの比較

	延長(km)	車線数	車道幅員	路肩幅員	歩道幅員	最小曲線半径	信号機(箇所)	踏切(箇所)	速度規制(h)
現道	8.4	1~2	2.75	0.5	0.75	30	8	1	40・50km
新道	8.9	2	3.25	1.5	3.5	1,000	3	0	無(60km)



普段は強い風も、式典当日は穏やかで冷え込みも和らいだ中、田村八幡平市長、千葉県会議長、杉原盛岡広域振興局長をはじめ、多くの関係者が出席し執り行われました。



地元「一の宮太鼓」の勇壮な演舞により開会した
開通式では、主催者による式辞、工事報告、来賓祝
辞、テープカットに続き道路パトロールカーを先導とす
るパレードが行われ、西根バイパスは待望の全線開
通となりました。

式典には「そばっち」と、リンドウの妖精「ありんちゃん」も登場し、会場を盛り上げました。



杉原盛岡広域振興局長の式辞



田村八幡平市長の祝辞



全線開通を祝してパレードが行われました。



開通後には、開通を待ちわびた多くの車両が通行を開始し、多くの利用者が喜んでいました。



「ありんちゃん」と「そばっち」は
子どもたちに大人気でした

災害公営住宅「西下団地」が、陸前高田市に完成！

～ 災害公営住宅（陸前高田市西下地区）新築工事 ～

建築住宅課

県が陸前高田市西下地区に整備を進めてきた災害公営住宅「西下団地」が、平成26年12月末に完成しました。陸前高田市内で県が整備を進めている災害公営住宅としては第1号に完成したもので、設計施工一括方式により建設された、鉄筋コンクリート造4階建て40戸の住宅です。

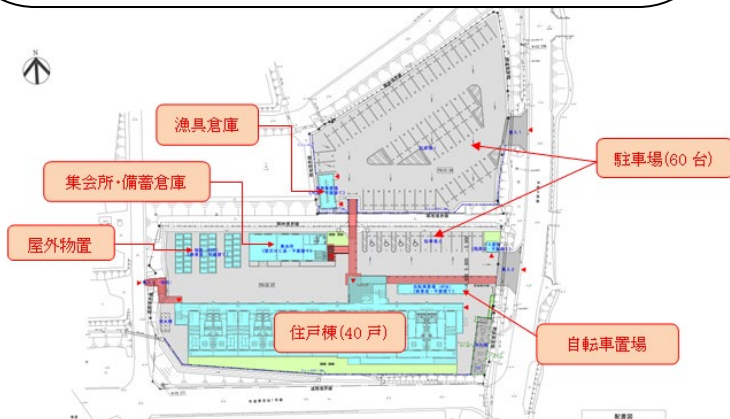
建物はバリアフリーに配慮し、車椅子利用者や高齢者向けの住戸を設けています。また、非常時にも照明等を利用できるように屋上に太陽光発電装置の設置や団地内に備蓄倉庫を設けるなど、地域の防災拠点としての役割も担っています。

今後入居される被災者の方々の暮らしの安定や、地域の復興につながることを願っています。



施設概要

- 1 敷地の位置 : 陸前高田市小友町字西下地内
- 2 敷地面積 : 約 4,788 m²
- 3 構造・階数・高さ : 鉄筋コンクリート造・4階建・14.4m
- 4 棟数・戸数・面積 : 1棟・40戸・約 3,370 m²
- 5 間取り : 2DK ; 18戸 (55.32 m²)
 2DK(シルバー対応) ; 6戸 (56.65 m²)
 2DK(車椅子用) ; 4戸 (67.56 m²)
 3DK ; 12戸 (66.72 m²)
- 6 付属施設 : 駐車場、集会所・備蓄倉庫、漁具倉庫、屋外物置、自転車置場等
- 7 工事費 : 約 8 億円



【復興関連道路】

主要地方道重茂半島線の道路整備について着工！

～ 本格復興邁進年！まちづくり連携道路整備が本格化！～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

1 (主) 重茂半島線のまちづくり連携道路整備

(主) 重茂半島線は、下閉伊郡山田町大沢地区から宮古市津軽石地区に至る重茂半島を周回する唯一の道路であり、水産業を中心とした地域住民の生活道路として重要な役割を果たしています。また、路線の一部は「三陸復興国立公園」を通過しており、本州最東端の鮎ヶ崎（とどがさき）の灯台やその周りに広がる風情豊かな景色を求めて多くの人々が訪れています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、重茂半島の宮古市姉吉地区で日本国内観測史上最高の高さ40.5mの津波遡上高が観測されるなど、重茂半島線の海辺の集落では浸水により道路が寸断され、長期間孤立するなどの甚大な被害が発生しました。

このため、県では、県復興計画において(主)重茂半島線を水産業の復興を支援する「復興関連道路」として位置付け、「多重防災型まちづくり推進事業(まちづくり連携道路整備事業)」により平成24年度から事業着手しています。現在、山田町の「大沢～浜川目」、宮古市の「川代」、「石浜」、「千鷲」、「里」、「熊の平～堀内」、「堀内～津軽石」の7地区で宮古市及び山田町の復興まちづくり計画と一体となって事業を進めており、本事業により、東日本大震災津波と同規模の津波が発生した場合でも、浸水しない道路が整備されます。

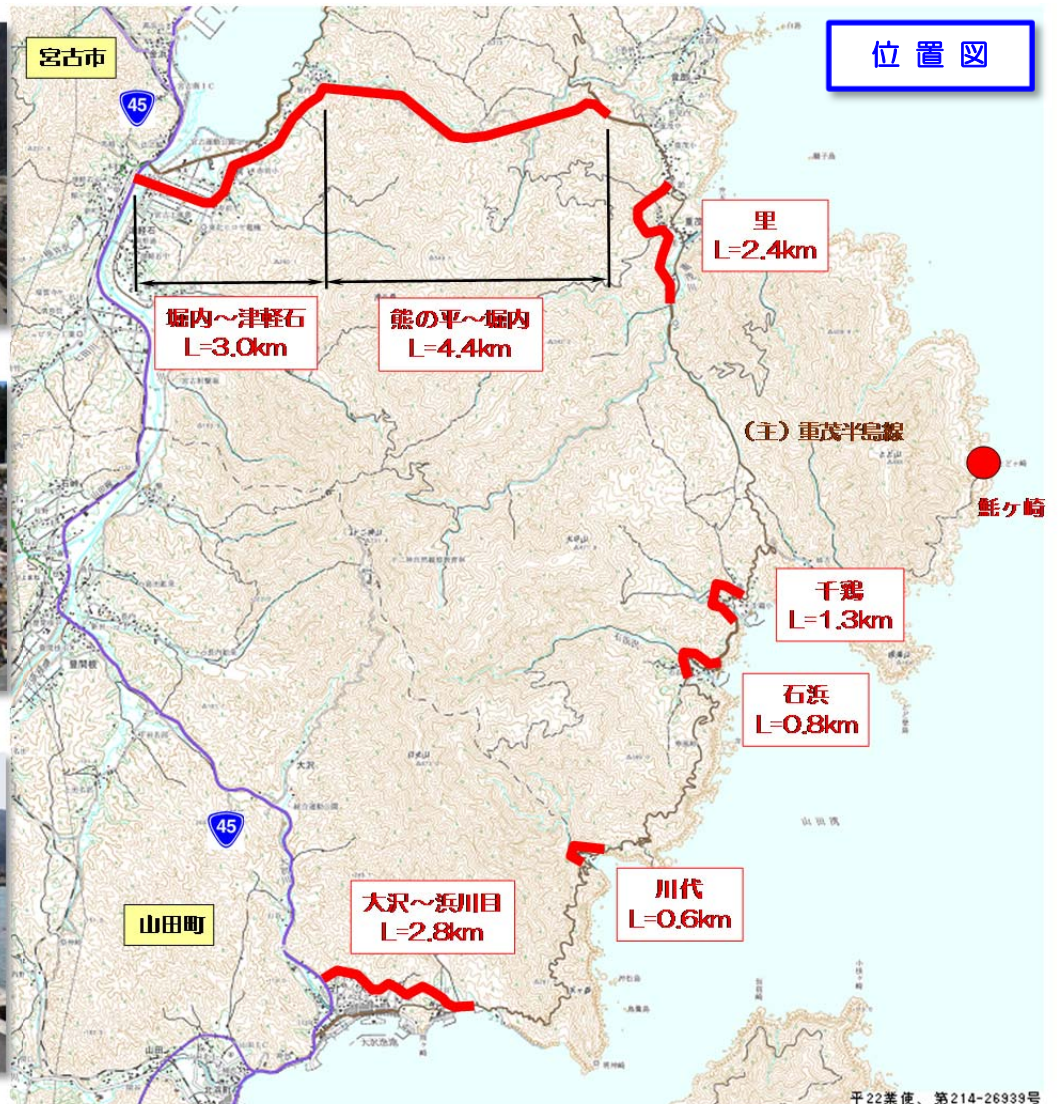
里地区 (落橋した向流橋)



石浜地区 (崩落した県道)



浜川目地区 (崩落した県道)



2 大沢～浜川目工区が（主）重茂半島線で初の着工！

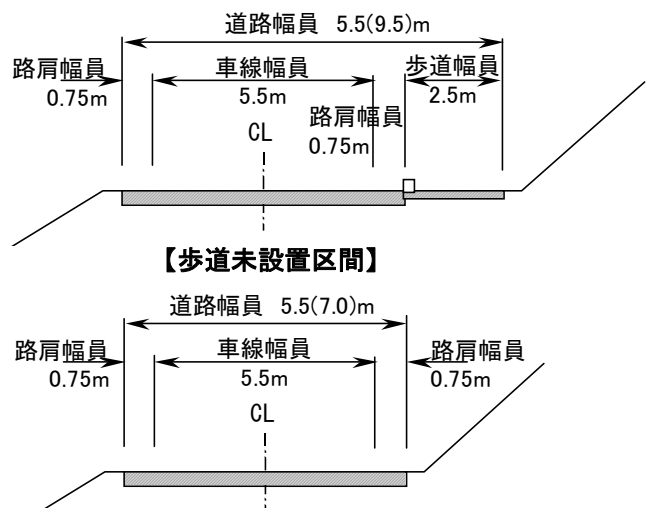
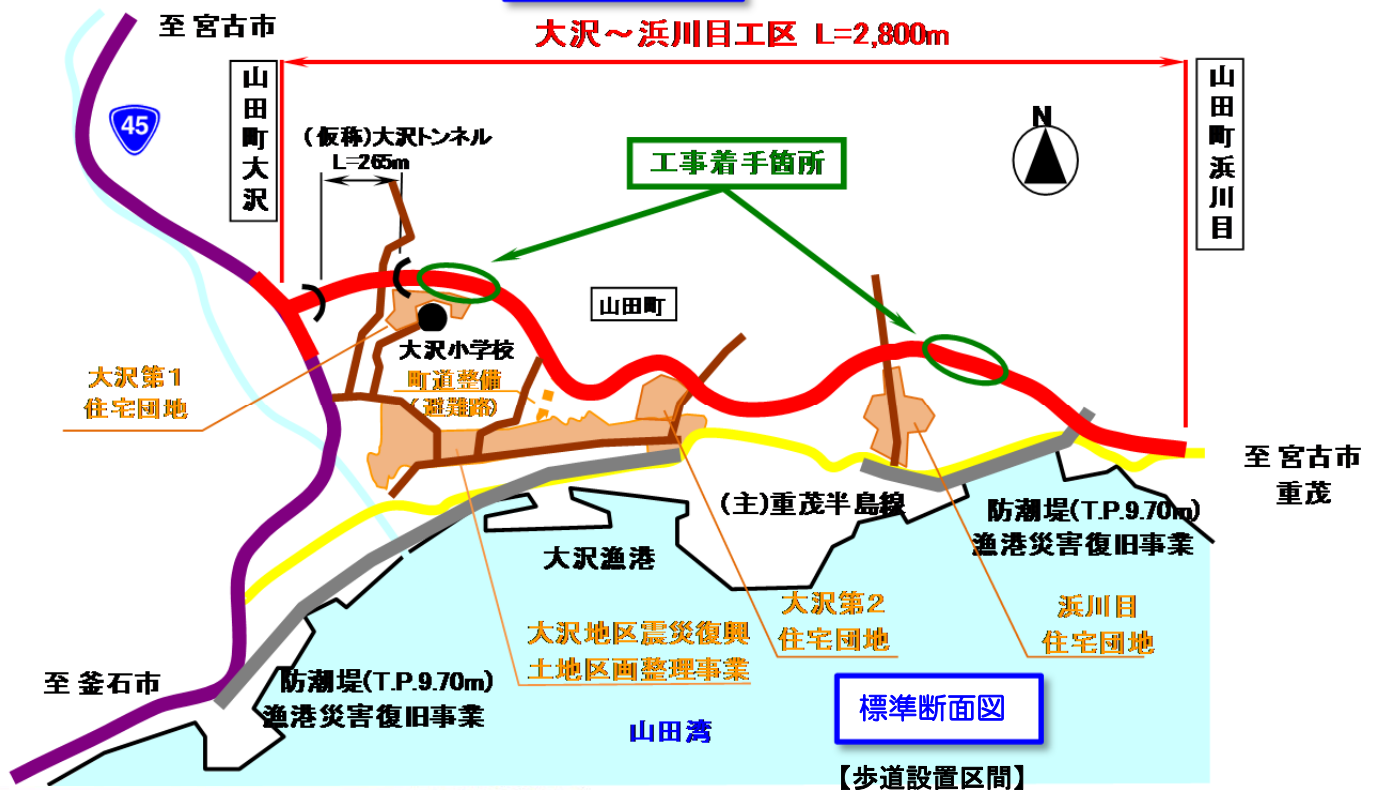
山田町で事業を進めている大沢～浜川目工区について、平成26年12月末から大沢地区の道路改良工事に着手しました。（主）重茂半島線のまちづくり連携道路整備事業の中で最も早い工事着手となります。

大沢～浜川目工区は、山田町の大沢～浜川目地区の浸水地域を回避して高台に新しい道路を整備するもので、工区沿線では山田町が3箇所の住宅団地（大沢第1住宅団地、大沢第2住宅団地、浜川目住宅団地）の整備を進めています。平成26年7月から用地補償に着手し、半年間で約9割（78名）の用地を取得、地域住民の皆様の御協力もあり、早期に工事着手することが可能となりました。

県では、今年を「本格復興邁進年」と位置付け、復興を強力に推し進めており、大沢～浜川目工区についても山田町が整備する住宅団地付近の道路改良工事を重点的に進めると共に、平成27年度には（仮称）大沢トンネル（L=265m）の工事にも着手する予定としています。

また、宮古市の千鷲工区や里工区についても、平成26年度中の工事着手に向けて事業を進めていきます。

概要図



貫通目指し、前進中！ 久慈市山形町

一般国道281号 案内トンネル工事

県北広域振興局土木部

県では、一般国道281号、久慈市山形町の案内工区を「復興支援道路」として整備を進めています。

平成26年5月のトンネル工事着工以来、鋭意作業を進めた結果、平成27年1月27日時点で、掘り始めから850mの地点まで到達しました！ これは、トンネル全延長の1,150mに対し、約4分の3に当たります。

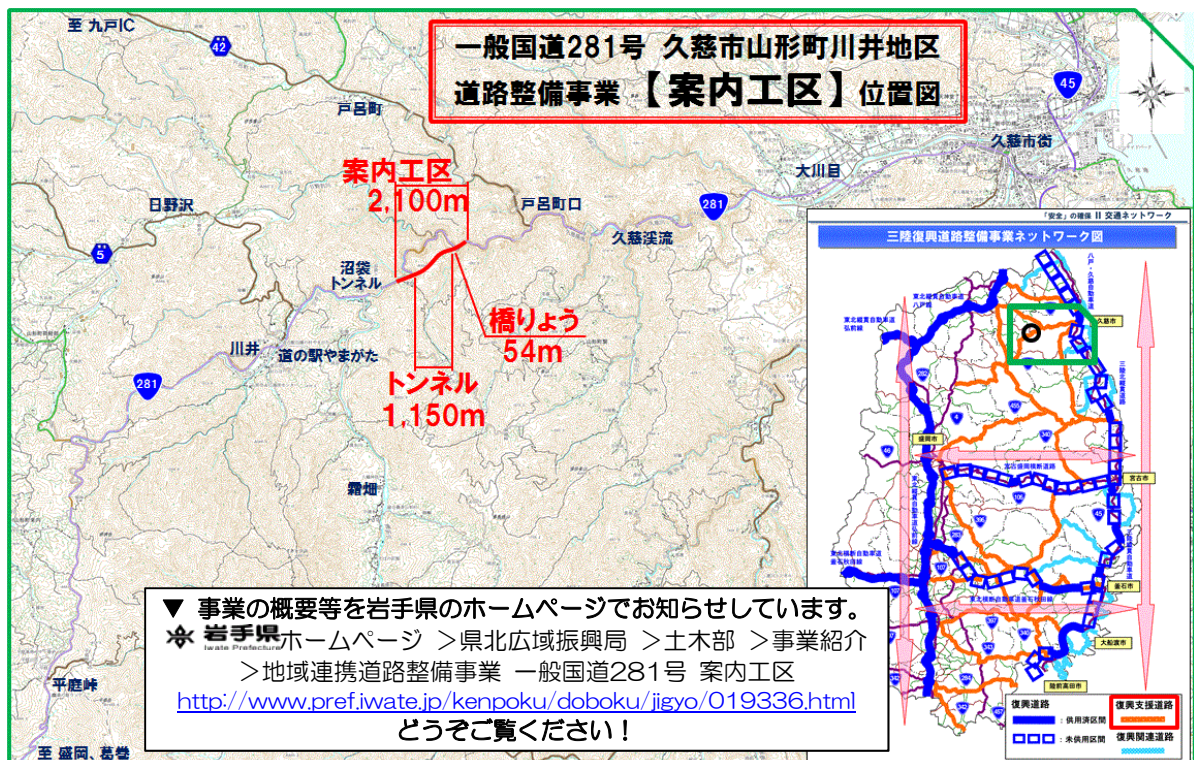
今後も安全に工事を進め、一日も早い貫通、そして全線の開通を目指し、関係機関等との連携を図りながら取り組んでいきます。

なお、トンネルの貫通は平成27年夏頃を予定しており、その後、トンネル内の舗装や設備、橋りょう等の完成を含めた全線の開通は、平成29年度を目標としています。

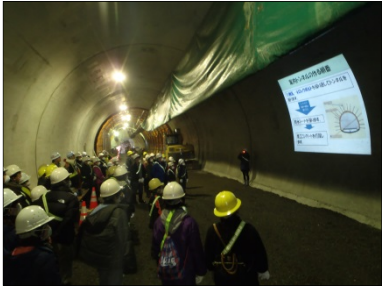


一般国道281号 久慈市山形町 案内工区 事業概要

- 事業箇所：久慈市山形町川井（沼袋トンネルと戸呂町口の間の区間）
- 計画延長：2,100m（現況は約3,100m。整備により約2分間の走行時間短縮）
- 主な構造物：案内トンネル 1,150m、新芋谷橋 54m
- 事業期間：平成24～30年度
- 総事業費：40億円



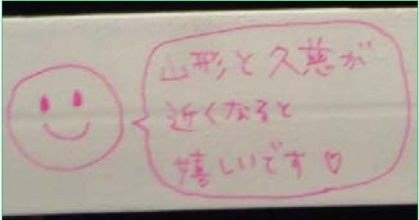
多くの皆様に、案内トンネルの現場に来ていただいております！



■ 案内工区では、随時、現場見学を受け付けております！
 少人数でも構いませんので、お気軽にお申込みください。
 ・見学の日時は、現場の作業工程と調整のうえ決めさせていただきますので御了承ください。
 ・現地集合とさせていただきます。
 (お申込み先) 県北広域振興局土木部 道路整備課 電話：0194-53-4990 (内線262)

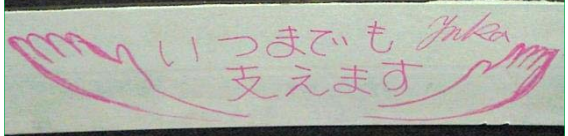


先日は、山形公民館放課後子ども教室の皆様など、47名の方々が見学にいらっしゃいました。
 見学会では、記念として、トンネルを掘削した後、岩盤が崩れてこないように支えるための鉄骨「支保工」に皆様に思い思いのメッセージを書いていただきました。今後の工事ではメッセージ入りの支保工をそのまま使用します。完成後はコンクリートで覆われ見えなくなりますが、トンネルとともにいつまでも保存されます。



皆様には、将来にわたって、道路の、そして地域の支えになっていただくことに期待します。

皆様も、ぜひ、案内トンネルの現場にいらしてください！



高田地区海岸養浜技術検討委員会を開催！

～養浜基本計画をとりまとめ～

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

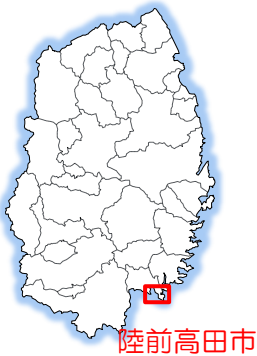
平成 27 年 1 月 26 日、盛岡市内で第 3 回高田地区海岸養浜技術検討委員会を開催し、養浜基本計画をとりまとめました。本委員会は、東日本大震災津波により流失した陸前高田市高田地区海岸の砂浜の回復（養浜）に向けた技術検討等を行うため、昨年 3 月 28 日に第 1 回委員会を開催し、議論を重ねてきたものです。

第 3 回委員会では、県から養浜材料は購入材を基本とすることや、平面、断面計画を示したほか、施工時の海域環境モニタリング調査計画（養浜材料の試験、水質モニタリング、生物生息調査）等を説明しました。

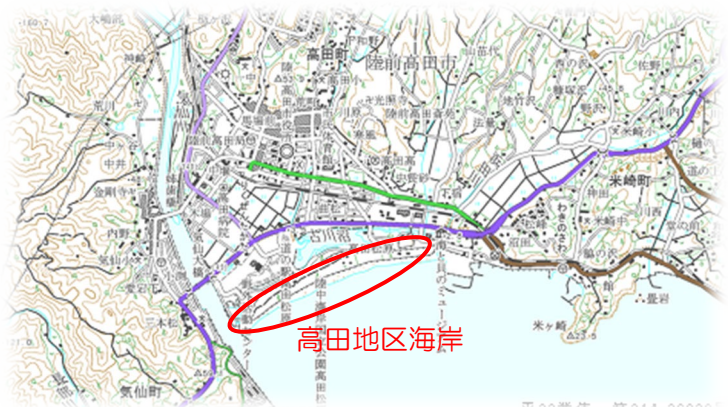
委員からは、「白砂青松を目指すことは大事だが、養浜は自然の波により断面が形成されるため、設計どおりに安定するとは限らない。ある程度の許容範囲を考慮して実施する必要がある。」などの意見が出されました。

県では、これまで経験のない大規模な養浜事業となることから、平成 27 年度に試験施工を実施し、効果を確認、検証したうえで、平成 28 年度以降、本格施工を行う予定としています。

位置図



陸前高田市



高田地区海岸

航空写真



震災前：平成 22 年 3 月 14 日撮影

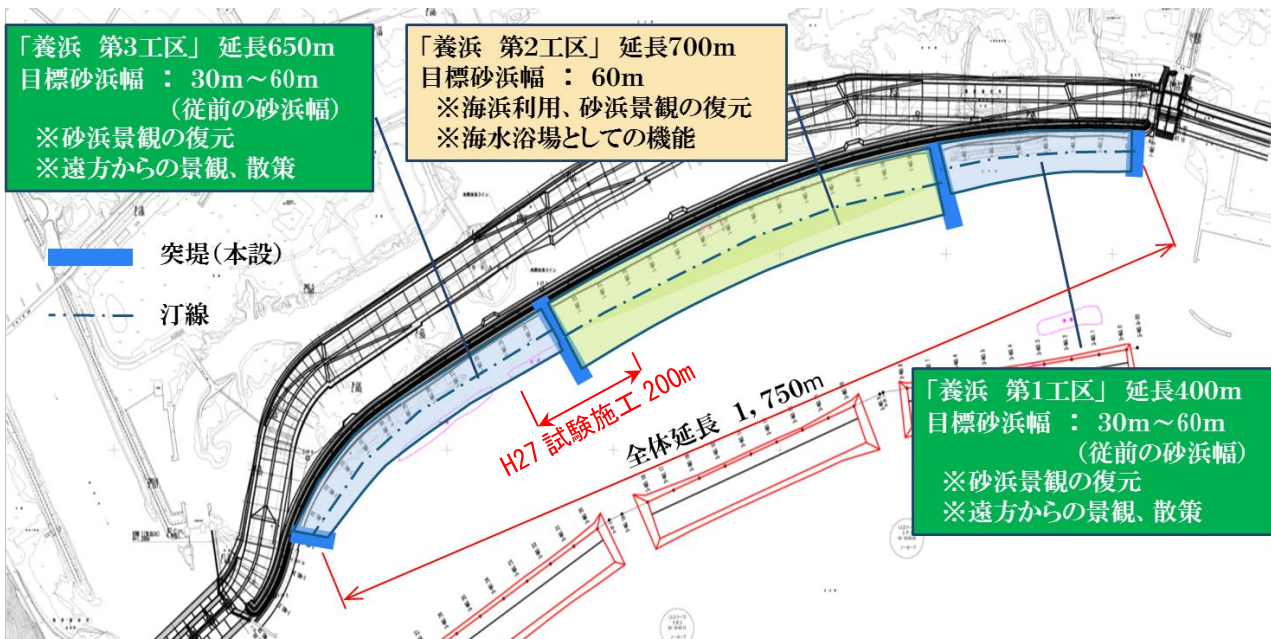


現在の復旧状況：平成 26 年 12 月 8 日撮影

平面計画と工区設定

全体計画は1,750mとし、3工区に分割しています。両側の第1、第3工区は、従前の砂浜幅30~60mに回復することを目標としています。中央部の第2工区(700m)は、将来の海水浴場としての利用を目指し、目標砂浜幅を60mとしています。

平成27年度の試験施工は、全体の約1割となる延長200m(第2、第3工区で各100m)で実施し、半年から1年の間、経過観察し、効果を確認・検証することとしています。



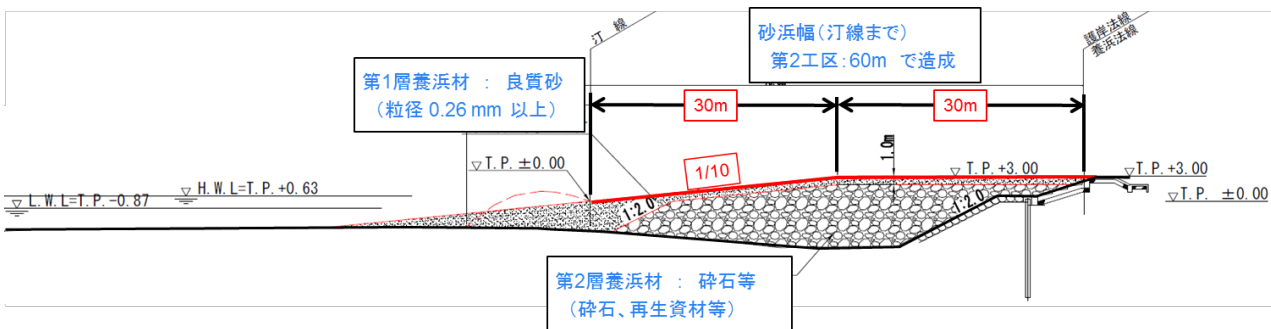
平面計画と工区設定

断面計画

断面は、第1層と第2層の2層構造としています。

第1層は、前浜勾配1/10とし、震災前の高田松原の砂と類似した色、粒径となるような砂を購入し、投入する計画です。砂の厚さは1m以上確保します。

第2層は、碎石や高台造成工事等の発生土とすることとし、コスト縮減を図っています。



第2工区(目標砂浜幅60m)の断面計画図

『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました！

～ 「本格復興推進年」の取組を発表 ～

**県土整備企画室
建設技術振興課**

平成 27 年 1 月 15 日から 16 日の 2 日間、東日本大震災津波からの復旧・復興現場における取組事例の発表等を通じて、現状や課題を共有するとともに、広く県内外に復興にかかる情報発信を行うこと等を目的として、「復興県土づくりシンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムでは、技術力研鑽と向上を目的とした県内の土木技術に関する発表会のほか、昨年まで復興の最前線で活躍して、派遣元に戻られた元応援職員も参加し、復興に携わった経験等を語る「応援職員によるトークセッション」を行いました。

当日は応援職員を派遣いただいている派遣元の都府県の職員をはじめ約 200 名が参加し、応援職員の復興への熱い思い等に触れ、本格復興への思いを新たにしました。



及川河川港湾担当技監による開会挨拶



会場の様子



パネル展の開催状況

土木技術研究発表会

○一般国道 282 号西根バイパス全線開通 岩手土木センター 主任 菊池 広伸

平成 26 年 12 月 25 日に全線開通した、「西根バイパス」の事業概要や開通までに苦労した点（用水の確保、軟弱地盤対策など）について、紹介がありました。会場からは、「東北縦貫自動車道が冬期等に通行止めとなった際の西根バイパスの整備効果を把握して欲しい」との意見がありました。



○下水汚泥焼却灰のアスファルトフィラーとしての利用時における粉砕処理の有効性 下水環境課 主任 佐藤 佳之

下水汚泥焼却灰をアスファルト混合物の材料の一つであるアスファルトフィラーとして利用できるか検討した結果について紹介がありました。既存の手法では、アスファルト合材の品質が低下していたが、粉砕した下水汚泥焼却灰を利用することで、通常品より品質及び製造コストで優位になる可能性のあることを発見しました。



○地域維持型契約方式による道路・河川等維持修繕業務委託について 遠野土木センター 主任 安部 努

遠野土木センターで取組んでいる「地域維持型契約方式」の内容や効果等について紹介がありました。「地域維持型契約方式」は、道路や河川等の維持修繕、除草、除雪業務などの複数の業務を複数年の契約で包括的に発注することで、地域社会の維持に不可欠な業務に円滑かつ安定的に対応し、的確な維持管理を行うことを目的に実施しているものです。



○自転車走行空間の整備について 盛岡市建設部交通政策課 技師 白沢 友紀

平成26年7月に盛岡市が盛岡市大通りに整備した、自転車走行空間「ブルーゾーン」について紹介がありました。ブルーゾーンの表示位置、線形、自転車の走行性の確保等について配慮し整備した結果、整備前に比べ、自転車の歩道走行や車道の逆走といった違反件数が大幅に改善したと報告がありました。



○一般国道106号門馬トンネルの冬期道路安全対策について 宮古土木センター 技師 廣内 芳久

平成26年1月から3月にかけて、「一般国道106号門馬トンネル」で多発した交通事故への対策について紹介がありました。交通事故を抑制するため、事故発生時の気象データや道路の構造等から事故原因を分析した上で、道路の舗装材料や横断勾配の修繕、路面表示や大型表示板の設置などの対策が施されました。



○宮古市道北部環状線の整備状況について 宮古土木センター 主任 熊谷 仲実

県が代行工事している「市道北部環状線」の進捗状況について紹介がありました。平成28年度の開通に向けて、現在は橋梁、トンネルなどの構造物等の工事を進めています。工事現場が市街地に近いため、騒音や振動対策に苦慮しているほか、現場から発生する残土の受入地の調整等が課題となっています。



○「復興支援道路」一般国道397号津付道路事業報告 津付ダム建設事務所 主任 小野寺 孝博

平成26年10月26日に開通した、「津付道路」の事業概要や整備効果について紹介がありました。また、希少動植物に配慮（工事の施工時期の調整、希少種の移植など）した点やLED照明採用によるコスト縮減対策、トンネル覆工コンクリートにおける中流動コンクリートの試験施工について報告がありました。



○「復興道路」一般国道106号宮古西道路（仮称）松山トンネル築造工事について～大断面土砂トンネルの機械掘削～ 宮古土木センター 主任 熊谷 利明

「宮古西道路」の事業概要と、平成26年10月に貫通した（仮称）松山トンネル築造工事について紹介がありました。トンネルの計画区間に分布する花崗閃緑岩が全般的に風化していたため補助工法を採用したこと、トンネル掘削時の観測結果から一次インパットコンクリートが必要となったことなどについて報告がありました。



○下水道展“14大阪への出展報告（全国への復旧復興情報発信）（公財）岩手県下水道公社 技師 金 郁麿、技師 廣内 稔彦

平成26年7月に開催された「下水道展‘14大阪」に出展した取組みについて紹介がありました。被災状況や復旧状況等についてモニター展示やポスター展示を行い、多くの来場者に東日本大震災からこれまでの間における全国からの支援に感謝を伝えるとともに、今後の支援の継続を訴えることができました。



○県代行事業による二級市道沼の浜青の滝線の道路復興整備について 宮古土木センター 技師 小林 翔太（長野県派遣職員）

県が代行工事している「二級市道沼の浜青の滝線」の災害復旧事業の進捗状況等について紹介がありました。他事業から発生した捨石を活用したコスト縮減対策や、工期縮減等を目的としたルート変更の検討結果などについて報告がありました。土砂の仮置き場の確保や埋蔵文化財調査等により工期が遅れないように工程管理を図ることが課題となっています。



○片岸・鶴住居地区の河川海岸災害復旧における取組について 沿岸広域振興局土木部 主査 大石 昌仙（静岡県派遣職員）

「片岸・鶴住居地区」の災害復旧事業の取組みについて紹介がありました。鶴住居地区では東日本大震災津波により多くの尊い命が犠牲となり、事業用地の取得に様々な課題が生じましたが、財産管理人制度や土地収用手続きを活用し、用地取得の迅速化を図った結果、発災から約3年半、用地取得開始から約1年半で用地取得完了できました。



○宮古土木センターで過ごした2年3ヶ月について～応援職員から見た復興への取組と今後の課題～ 宮古土木センター 主任 林 臣志（長野県派遣職員）

東日本大震災津波発災から、応援職員として延べ2年3ヶ月の派遣期間で感じたこと等について紹介がありました。派遣元の長野県と岩手県の組織の違いや、予算管理の一元化、監督日誌の作成、各種基準書の整理などの提言をいただいたほか、復興が完了してからも岩手県と応援職員がつながりを持ち続けられるようにしたいとメッセージをいただきました。



応援職員によるトークセッション

現在東日本大震災津波からの復旧・復興のために、他県から岩手県に派遣されている4名の方と、昨年まで岩手県に派遣され派遣元に戻られた3名の方、計7名に参加いただき、フリーアナウンサーの千葉星子さんの司会進行によりトークセッションを行いました。

出演者から、派遣のきっかけや岩手での思い出、復興への思い、岩手県へのメッセージなどを語っていただきました。会場からは「派遣元で一番伝えたいことは？」などの質問がありました。

最後に佐藤県土整備部長から、「岩手県の復旧・復興の状況を全国に発信することや、応援職員との交流を末永く続けていくことが大切であることを改めて感じた。」とのコメントがありました。



- 通常業務のほかに、「三陸ブランド創造隊」に入り地域を活性化させる活動のお手伝いをしている。
- 東京から友達を呼んだ時は、観光大使のように県内を案内している。岩手の方も自分たちで岩手の良さを見つけて、積極的にアピールして欲しい。
- 被災地から遠く離れると、復興に関心がある人が減ったと感じる。派遣元に戻ったら復興がまだまだ進行中ということ伝えたい。



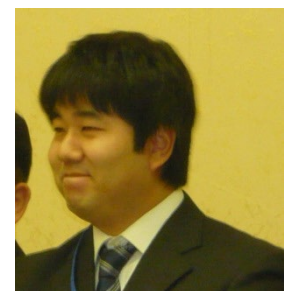
倉下 佳子 さん
沿岸広域振興局土木部（東京都派遣職員）



小林 正隆 さん
宮古土木センター（山梨県派遣職員）

- 学生時代に岩手大学に在学していたので、岩手を第2のふるさとと思っている。
- 岩手の名所をレポートにまとめ、山梨県の方に紹介している。
- 岩手の良さを皆でアピールしましょう。全国には岩手を気にかけている方がたくさんいるので、つながりを築いて復興を進めていただきたい。

- 現場は最盛期。1週間くらい現場に行かないと現場の中で迷うぐらい、刻々とまちの姿が変わっている。
- 休日はテニスをしている。地元の方とも交流でき良いストレス解消法となっている。
- 大阪で災害が起こった際には、助けもらえるように残りの派遣期間もがんばります。



岡田 知也 さん
大船渡土木センター（大阪府派遣職員）



奥 友美 さん
都市計画課（東京都派遣職員）

- ・昨年度は仙台市に派遣されていたが、引続き区画整理業務を通じて復興に貢献したく今年度は岩手県への派遣を希望した。
- ・岩手で初めて行った観光地は北上の展勝地。桜並木がきれいで、空が広い大きな景色に感動した。
- ・派遣元に戻った際は、突然やってくる災害に供え、準備することが大事と伝えている。

- ・地元を離れて生活することで、地元の良さを再認識した。被災者も早く地元に戻りたいのではないかと。被災者が早く地元に戻るよう基盤づくりを進めて欲しい。
- ・現在、静岡で岩手のことが話題になることは少なくなった。
- ・岩手の方は生真面目。たまには息抜きをして御自愛ください。



山口 誉尊 さん
静岡県（H24～H25 建築住宅課）



鈴木 善明 さん
長野県（H25 宮古土木センター）

- ・他事業との調整や労働者・資材不足など、次々と課題に直面し、被災の規模の大きさを感じた。
- ・岩手で過ごした休日は、今でも写真を眺めながら思い出している。自転車で走ると岩手の街道筋の街並みのきれいさに驚いた。
- ・岩手は必ず復興できる。復興道路の整備が完了すれば、観光ポテンシャルも高いので、町おこしもできるのではないかと。

- ・岩手での一年間は、全力で仕事し全力で休日を楽しんだ。
- ・被災地の情報は大阪には届いてこない。自分で情報を探さないと東北の状況がわからない。仕事で辛いときなどは派遣先であった大船渡土木のHPで復興の状況をチェックし、復興の進み具合をみて勇気づけられている。
- ・一丸となって復興に向かってほしい。大阪で応援しています。



中島 正登 さん
大阪府（H25 大船渡土木センター）

